

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	
施 設 名	調布市せんがわ劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	7,382	(千円)
	公 演 事 業	2,764 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,949 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,669 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	親と子のクリスマス・メルヘン『へんゼルとグレーテル』	2022年12月16日～ 2022年12月25日	[原作] ヘンゼルとグレーテル (グリム童話より) [演出・上演台本] 一宮周平 [舞台美術・衣裳美術・宣伝美術] tupera tupera [作曲] 加藤亜祐美 [照明] 上田茉衣子 (LICHT-ER) [音響] 竹下好幸 [舞台監督] 廣瀬正仁 [出演] 魔女・義母…原 扶貴子 (東宝芸能) 父親…吉増裕士 (ナイロン 100℃) グレーテル…石原夏実 (すこやかクラブ) ヘンゼル…新行内啓太 (俳優) [監修] 小笠原 響 (演出家)	目標値	850
		調布市せんがわ劇場		実績値	1,119

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要	入場者・参加者数	
		主な実施会場	(演目、主な出演者、スタッフ等)	目標値	実績値
1	せんがわ劇場演劇コンクール	2022年5月21日～ 2022年5月22日	<p>◆第12回せんがわ劇場演劇コンクール</p> <p>[本選出場団体] 盛夏火、ほしぷろ、エリア51、安住の地、階(缶々の階)</p> <p>[専門審査員] 高田聖子、長田佳代子、松井 周、三浦直之</p> <p>[結果] グランプリ：階(缶々の階)、オーディエンス賞：安住の地、劇作家賞：神保治暉(エリア51)、演出家賞：星善之(ほしぷろ)、俳優賞：瀧澤綾音(ほしぷろ)</p> <p>[スーパーバイザー] 小笠原 響(演出家)</p> <p>[企画監修] 徳永京子(演劇ジャーナリスト)</p> <p>[アフターディスカッション] 参加者：出演団体、専門審査員、一般審査員</p> <p>内容：表現者と鑑賞者のコミュニケーション機会を設け、表現者の新たな刺激や気付けや鑑賞者の舞台芸術への理解深化の場とした。</p>	目標値	一般鑑賞者延べ350人(一般鑑賞者70人×5ステージ※有効座席数78席)、市民審査員16人(募集定員16人)
		調布市せんがわ劇場	<p>◆第12回せんがわ劇場演劇コンクール受賞公演プロモーション</p> <p>令和5年5月26日(金)～28日(日)に実施するオーディエンス賞受賞公演、令和5年5月29日(月)～6月4日(日)に実施するグランプリ受賞公演に向けて、受賞団体の紹介等のプロモーションを行った。</p>	実績値	一般鑑賞者延べ281人(有効座席数延べ281席)、一般審査員数16人(募集定員16人))

2	せんがわピアニストグローイングアッププログラム	2022年8月23日（予選）、2022年8月28日（本選）	<p>◆第11回せんがわピアノオーディション</p> <p>[選考委員] 高橋多佳子、有森 博、近藤嘉宏、下田幸二、浜野与志男、市民審査員 7人</p> <p>[結果] 応募者：37人、最優秀賞：小嶋早恵、優秀賞：鈴木美穂・中山結菜、市民審査員賞：杉本沙織</p>	目標値	オーディション／受験者：30人 一般観覧：延べ80人 市民審査員：6人 受賞コンサート／入場者：109人×2公演
		2023年2月25日～2023年2月26日（受賞公演）	<p>◆第11回せんがわピアノオーディション受賞公演</p> <p>[出演者] ジョイント・リサイタル：鈴木美穂、中山結菜、杉本沙織 リサイタル：小嶋早恵</p> <p>◆その他せんがわピアニストグローイングアッププログラムの内容 セルフプロデュース力養成（宣材作成等）、メディアトレーニング（地域メディアへの出演（ラジオ、ケーブルテレビ、YouTube））</p>		実績値
		調布市せんがわ劇場			

3	DEL (ドラマ・エデュケーション・ラボ)	2022年4月19日～ 2023年3月27日	<p>1. メンバー募集 せんがわ劇場演劇コンクールファイナリストを中心にメンバーを募集</p> <p>2. 認定プログラム 実施日：2022年7月9日・10日、 2022年8月13日・14日 講師：佐川大輔（せんがわ劇場チーフ演劇ディレクター） 内容：せんがわ劇場、DEL、演劇アウトリーチについての講義のほか、アウトリーチプログラムの作り方や進行方法について実践を交えながら研修を行った</p> <p>3. 育成プログラム ①「認知症ケアに演劇的手法を取り入れたワークショップの実践的プログラム」 実施日：2022年7月22日 講師：菅原直樹（劇作家・演出家・俳優・介護福祉士） ②「ハラスメント防止」 実施日：2023年1月27日 講師：大野陽子（株式会社ヒューマンキャリアダイナミクス） ③「高齢者へのアプローチ」 実施日：2023年2月21日 講師：西海まり（ワークショップファシリテーター・俳優）</p> <p>4. アウトリーチ事業用のワークショップ付き移動公演の創作 Dアウトリーチ事業において活用することができる「演劇作品と作品に関連したワークショップ」の創作・試演を行った。</p> <p>[運営監修] 小笠原 響（演出家）</p>	目標値	46人
		調布市せんがわ劇場ほか	実績値	42人（新規参加9人、活動休止8人）	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	エンゲージメントコンサート1 ファミリー音楽プログラム	2023年2月11日	楽器の女王 ハープのひみつ 出演者：清水梨紗（ハープ）・永井由比（司会・フルート／桐朋学園芸術短期大学教授）	目標値	200人 (50人×4公演)
		調布市せんがわ劇場		実績値	166人(2回／定員99人)
2	エンゲージメントコンサート2 サンデー・マティネ・コンサート～午後への前奏曲～	2022年4月17日、 2022年5月15日、 2022年7月17日、 2022年9月11日、 2022年10月9日、 2022年11月27日、 2023年1月15日	vol. 243 春のスタートコンサート 出演：0' Jizo（インストゥルメンタルバンド） vol. 244 ドイツ歌曲で見る 変わる想い、変わらない想い 出演：井出徳彦（ピアノ）・小池 優介（バリトン） vol. 245 夏に愉しむ、涼やかな夏の音色 出演：田辺しおり（尺八）・伊藤江里菜（箏） vol. 246 心躍る♪金管アンサンブルの調べ 出演：金管五重奏（桐朋学園在学学生）	目標値	763人
		調布市せんがわ劇場	vol. 247 はじめまして！ユーフォニアム 出演：安東京平（ユーフォニアム）・清水初海（ピアノ） vol. 248 木のぬくもり感じるマリンバの音色 出演：新田吏央（マリンバ）・中里百花（ピアノ） vol. 249 バロック時代は自由だった！～コレッリのソナタに付けられた同時代のヴァイオリニスト達の装飾～ 出演者：若松夏美（バロックヴァイオリン）・上尾直毅（チェンバロ） [企画監修] 上原 宏（桐朋学園大学音楽学部教授／せんがわ劇場音楽アドバイザー） 松井康司（桐朋学園芸術短期大学教授／せんがわ劇場音楽アドバイザー）	実績値	

3	エンゲージメントコンサート3 せんがわミュージックライブ	2022年10月16日、 2022年11月6日	vol.9 出演：辰野 翼（ピアノ） vol.10 出演：カルテット・インテグラ（弦楽四重奏）	目標値	436人
		調布市せんがわ劇場		実績値	202人 （延べ定員数215人）
4	エンゲージメントコンサート4 現役世代コンサート	2023年1月18日、 2023年2月5日	吉田志門テノールリサイタル 出演：吉田志門（テノール）・碓 大知（ピアノ）	目標値	180人
		調布市せんがわ劇場	水野優也チェロリサイタル 出演：水野優也（チェロ）・五十嵐薫子（ピアノ）	実績値	208人
5	せんがわワークショップ・フェスティバル2022	2022年7月22日～ 2022年8月7日	[ワークショップ①] こども表現ワークショップ「おとぎ話の続きを作ろう！」 講師：有川義孝（劇作家・演出家） [ワークショップ②] セリフを覚えない演劇体験～劇的リーディング～ 講師：佐川大輔（俳優・演出家） [ワークショップ③] 五感で楽しむベイビーシアター ～くじらの母さんのこもりうた～ 講師：タカミナオミ（俳優・ワークショップファシリテーター）	目標値	170人
		調布市せんがわ劇場	[ワークショップ④] 老いと演劇 ～認知症の人と“いまここ”を共に楽しむ～ 講師：菅原直樹（劇作家、演出家、俳優、介護福祉士） [ワークショップ⑤] カラダで楽しんだもん勝ち ～楽器と合わせて即興ダンス～ 講師：白神ももこ（振付家）	実績値	157人 （延べ定員数192人）

6	せんがわ劇場演劇アウトリーチ（コミュニケーション育成）	2022年4月19日～ 2023年3月14日	<p>[実施先及び回数]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立第七中学校はしうち教室（分室型不登校特例校）ACW 15回 ・市立第七中学校はしうち教室（分室型不登校特例校）表現科 20回 ・白百合女子大学りすぶらん・あんふあん（子育て支援ルーム）1回 ・市立神代中学校 11組（特別支援学級）6回 ・市立第七中学校（通常学級）コミュニケーション講座 1回×5クラス ・白百合女子大学人間総合学部エデュテイメント大学事務局 1回 ・社会福祉法人六踏園調布学園 1回 <p>[スタッフ]</p> <p>DEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ）のメンバー</p> <p>[スーパーバイザー]</p> <p>小笠原 響（演出家）</p>	目標値	延べ 2,200人
		市内各所		実績値	延べ 524人※
7	せんがわ劇場演劇アウトリーチ（鑑賞型）	2023年1月25日、 2023年2月25日、 2023年3月27日	<p>[実施場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立多摩川児童館（1/25） ・市立つつじヶ丘児童館（2/25） ・市立染地児童館（2/25） ・市立深大寺児童館（3/27） <p>[上演作品]</p> <p>おれたちユカイな風来ブー</p> <p>[作・演出]</p> <p>うえもとしほ</p> <p>[出演]</p> <p>今井美佐穂、三石美咲、中村真季子</p> <p>[スーパーバイザー]</p> <p>小笠原 響（演出家）</p>	目標値	延べ 400 人
		市内児童館（4カ所）		実績値	145人

8	せんがわ劇場音楽アウトリーチ	2022年9月5日、 2022年9月28日、 2022年10月6日、 2022年11月4日、 2022年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・市立滝坂小学校音楽室（9/5） [対象] 3年生・4年生 ・市立石原小学校体育館（9/5） [対象] 5年生 ・市立緑ヶ丘小学校多目的室（9/28） [対象] 3年生・4年生 ・市立第二小学校音楽室（11/4） [対象] 3年生・4年生 ・市立北ノ台小学校体育館（11/4） [対象] 4年生 [出演者] 弦楽四重奏（大庭絃子（ヴァイオリン）・服部佐知子（ヴァイオリン）・秀岡悠汰（ヴィオラ）・松本亜優（チェロ）） 	目標値	520人
		市内小学校（7校）	<ul style="list-style-type: none"> ・市立上ノ原小学校体育館（10/6） [対象] 5年生・6年生 [出演者] 住谷美帆（サクソ）・AKI マツモト（ピアノ） ・市立国領小学校体育館（12/20） [対象] 1～6年生 [出演者] 桐朋学園大学音楽学部打楽器専攻学生（野宮瑞希・間庭美咲・佐野水姫・延 詩音・黒沼結香） 	実績値	1,174人
9	地域連携プログラム「お菓子の家」をつくる／はこぶ／あらわれる	2022年11月19日（ワークショップ）、 2022年11月20日（パレード・パフォーマンス）、 2022年12月21日～2022年12月5日（展示	<ul style="list-style-type: none"> [造形ワークショップ] 日程：11/19日（土） 会場：調布市せんがわ劇場 [移動展示（パレード）] 日程：11月20日（日） 会場：調布市せんがわ劇場周辺、仙川商店街、京王線仙川駅前、白百合女子大学 	目標値	ワークショップ参加者：20人 展示鑑賞者：1,000人
		調布市せんがわ劇場、 調布市せんがわ劇場周辺、 仙川商店街、京王線仙川駅前、 白百合女子大学	<ul style="list-style-type: none"> [展示] 日程：11/21日（月）～12/5日（月） 会場：点と未来デザインラボラトリー（調布美術研究所） [ワークショップ講師] tupera tupera（アートユニット） [移動展示（パレード）出演] 石原夏実、新行内啓太、一宮周平、加藤亜祐美 	実績値	ワークショップ参加者：27人（当初定員25人） 展示鑑賞者：約1,110人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>（公演事業）施設のミッション「質の高い文化芸術で市民の心を耕す」を達成するため、企画性の高い舞台芸術を創造・発信することで市民に感動体験を提供し、個人や家族のウェルビーイングに変化を起こすことを目標に事業を実施した。設置自治体の将来人口推計や市民意識調査をもとに地域の実情・ニーズを調査したうえで、地域の公立文化施設として相応しいテーマ、対象等を設定し、地域にとって訴求力の高いアーティストを招聘し事業を組み立てた。</p> <p>（人材養成事業）施設のミッション「豊かな想像力と創造性を備えた次世代を育てる」を達成するため、次世代を担う舞台芸術活動者が刺激を受け、切磋琢磨できる競い合いの場を設けるとともに、地域にその知識や能力を還元できる人材を養成する人材像を設定して事業を実施した。事業の立案にあたっては、他の劇場が実施する人材養成事業等を調査し、独自性と必要性を勘案して企画立案を行った。</p> <p>（普及啓発事業）施設のミッション「質の高い文化芸術で市民の心を耕す」「文化芸術で居心地のよいまちづくりに貢献する」を達成するため、1人でも多くの市民に文化芸術を提供し文化芸術を生活の一部にすることと、地域の文化環境づくりを通じた社会課題の解決に貢献することを目標に事業を実施した。これまでの実施事業における来場者アンケートや市民意識調査をもとに地域の実情や選好を検討し、多彩で親しみやすい鑑賞機会や参加型事業を組み立てるとともに、地域の潜在・顕在的課題を踏まえたアウトリーチ事業を実施した。</p> <p>総じて、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業とも調布市せんがわ劇場条例（平成19年9月21日条例第32号）、「豊かな芸術文化・スポーツを育むまちづくり宣言」（平成27年）を踏まえつつ、施設のミッションの達成に向けて、適切な組み立てと支障のない事業実施ができたと考えている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>（文化的意義）当劇場がある地域は芸術系大学が所在する「表現者を育む文教地域」と言え、文化芸術への関心度や要求度は高い。その中で、劇場職員と専門人材による検討・選定によって、知名度が高くターゲット層への訴求力があるアーティストの招聘（公演事業－事業番号1）や、当該年度に実施された国際コンクールに入賞した演奏家や、地元出身で国内の著名なコンクールの受賞歴がある若手演奏家のリサイタル（普及啓発事業－事業番号2～4）を実施し、質の高い文化芸術を提供することで地域の芸術鑑賞環境の向上に寄与している。</p> <p>（社会的意義）地域団体や教育機関、福祉法人との連携や地域で活躍できる舞台芸術活動者の養成を通して、施設のリソース以上の価値を生み出すことを企図している。具体的にはアウトリーチ事業（普及啓発事業－事業番号6～8）における教育機関や社会福祉団体との連携や地域連携事業（普及啓発事業－事業番号9）における地元商店街との連携、演劇公演（公演事業－事業番号1）における障害者向けバックステージツアーの企画、アウトリーチ人材の養成（人材養成事業－事業番号3）及び活用（普及啓発事業－事業番号6～8）であり、これら事業を通じた文化芸術の社会的価値の創出により地域社会に貢献している。</p> <p>（経済的意義）総務省「社会生活基本調査（平成28年度）」によれば舞台芸術全般における鑑賞者は横ばいもしくは減少傾向にある。そのような中で舞台芸術の経済圏の維持・拡大に向けて、当劇場ではアウトリーチ事業やワークショップ等の普及事業を実施してきた。左記事業は従来の鑑賞事業では対象とならなかった市民への文化芸術体験機会を提供し、公立文化施設等の鑑賞公演や貸館といった従来型事業をより効果的なものにするるとともに、中長期的視点における舞台芸術経済圏の維持・拡大につながることを期待していると言える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の各目標に対応した指標を設定した。当該目標の到達度合いを多角的に図るため複数の指標を設定し、同一目標内の指標がトレードオフの関係とならないよう留意した。各指標の達成状況は以下のとおりであり、目標値を達成した指標については「★」を付記する。

(公演事業) 目標を達成した指標の数 3 指標中 2 指標

【指標①】来場者満足度 [目標値] 95%以上 [実績値] 91.0%

【★指標②】入場者率 [目標値] 93%以上 [実績値] 93.9% ※入場者率=有効座席数に占める入場者の割合

【★指標③】ターゲットを対象とした券種の販売占有率 [目標値] 70%以上 [実績値] 72.0%

※ターゲットを対象とした券種=一般親子ペア券、平日親子ペア券、会員おやこペア券、クッション席（赤ちゃんOKデーのみ）

(人材養成事業) 目標を達成した指標の数 5 指標中 4 指標

【★指標①】鑑賞者・市民審査員の満足度（事業番号1・2）

事業番号1 [目標値] 90%以上 [実績値] 97.3% 事業番号2 [目標値] 90%以上 [実績値] 91.4%

【指標②】オーディション応募者数（事業番号2）[目標値] 50人以上 [実績値] 37人

【★指標③】「おおいに成長のきっかけとなった」と感じた参加者の割合（事業番号1・2）

事業番号1 [目標値] 60%以上 [実績値] 63.6% 事業番号2 [目標値] 60%以上 [実績値] 82.1%

【★指標④】DELメンバー新規登録者数（事業番号3）[目標値] 5人以上 [実績値] 9人

【★指標⑤】「今後も引き続き応援したい」と思う鑑賞者の割合（事業番号2）[目標値] 80%以上 [実績値] 94%

(普及啓発事業) 目標を達成した指標の数 4 指標中 2 指標

【指標①】来場者満足度（事業番号1～4合計）[目標値] 95%以上 [実績値] 91.4%

【★指標②】新規又は久しぶりに来た参加者の割合（事業番号1～5合計）[目標値] 40%以上 [実績値] 46.3%

【指標③】「芸術・文化は大切だ」と回答する参加者の割合（事業番号6～8合計）[目標値] 95%以上 [実績値] 91.8%

【★指標④】事業実施件（場所）数（事業番号6～8合計）[目標値] 13件以上 [実績値] 18件

計画時に設定した全指標の達成度合いを概観すると、著しく目標値に至らなかった指標は見当たらず、全計画事業を通じて概ね目標を達成することができたと言える。ただし、指標の実績値が目標値に到達しなかった事業があることも事実であり、アンケートデータや事業実施プロセスを検証し、改善を図る必要がある。

また、殊に文化芸術の分野においては既存の実績測定（performance measurement）の手法だけでは測りきれない要素があり、事業の価値評価についてネット・プロモーター・スコア（Net Promoter Score）やステークホルダーへの半構造化インタビュー調査など、評価手法や指標の設定についても検討する。

加えて、事後評価結果は、計画時（過去）に設定した目標と計画の成果を検証するものである。事後評価結果から当該事業の改善点を指摘することはできても、社会や経済の状況は変化し、それに伴い劇場・音楽堂等が取り組む課題も当然ながら変化することから、目標・指標についての定期的な点検のほか、目標への到達に向けた指標の適合性についても留意して計画を策定していきたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当該年度においては、一部で当初計画の事業期間から大きく変更を要する事業が生じた。原因として当劇場の施設改修（外壁塗装、防水工事）の実施時期が計画策定時の段階で定まらず、工事期間の確定後に事業実施日の再設定と出演者の調整を行ったためである。

殊に音楽分野の事業（普及啓発事業一事業番号2～4）においては工事音が発生する工程期間においては実施日だけではなくピアノ調律、リハーサルにかかるホール使用についても留意が必要であり、平日の事業実施が困難な状況であった。また音楽事業の出演者については国外で活動する場合も多く、事業実施日の再設定に伴い出演が叶わなくなる出演者もあった。他方で、前年度から既に制作が一定程度進行しており、かつ複数日の施設使用が伴い、実施期間の変更が困難な演劇分野の事業については、工事実施者である調布市と調整のうえ、計画通りの期間で事業を実施することができた。

総じて、当該年度における事業実施期間の変更から、施設の設置者である調布市への事業実施期間の適正性と実施の妥当性についての説明が充分ではなかったことが反省点として挙げられ、行政の所管部署や当財団の施設管理部門との連携の必要性を教訓として得た。

翻って、アウトリーチ事業（普及啓発事業一事業番号6～8）については、要望時は実施期間が未定であったが、実施先となる市内小学校や児童館、社会福祉施設等と実施時期を検討し、効果の高い時期（参加者が多く見込める・調布市教育委員会主催の連合音楽会前・授業の单元など）に実施することができたと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象全事業の決算額は、要望額に対し約92%で、全体では20%以上の大きな乖離を生じさせることなく事業完了させることができ、事業毎（公演・人材養成・普及啓発）の決算額についても要望額に対して20%以上の乖離は生じなかった。

しかしながら、上述の結果は変更に応じて適正な範囲内で資源の再配分を行った結果であり、個別の実施事業については当初計画からの変更により事業費が計画と比較して乖離があった事業があることも事実である。

普及啓発事業一事業番号1では、当初計画していた出演者の招聘が困難となる中で、実施予定時期に近似の内容で提携公演の実施が決まり、当該事業が主な対象としていた鑑賞者層に向けた事業提供が重複することから、事業実施を見送った。普及啓発事業一事業番号3では、上述の施設改修工事による実施日の再設定及び当財団全体の年間音楽事業ラインナップを勘案し、当初計画から実施回数を変更した。

また、普及啓発事業一事業番号6は演劇的手法を活用したコミュニケーション育成ワークショップ等が事業内容であるが、実施に際して新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施件数・事業費執行ともに当初計画を下回った。具体的な影響として、感染拡大の第7波（2022年7月～）・第8波（2022年12月～）により、①実施先の外部者受け入れ等の判断が難しい、②感染防止策が十分に施せない実施先への派遣は講師の安全を保証できない、③講師派遣の実績がある実施先でも感染に関してよりリスクの低いコンテンツの実施が決定している、④コロナ禍を経て実施先の運営体制・方針等の変更または活動の縮小が生じている、といった影響が初計画を下回った理由として挙げられる。

今後は、殊に上記③については、実施の再開に向けて実施先とのコミュニケーションを密に図っていく必要がある。また、コロナ禍を経た地域ニーズの変化についても注視し、地域に必要な事業展開を検討していく。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【専門的外部人材】

（演劇分野：スーパーバイザー、ディレクターチーム、外部アドバイザー、音楽分野：アドバイザー、ピアノオーディションプロデューサー）

当劇場では企画立案、制作、監修といった各プロセスで専門的外部人材が関与し、事業を運営している。演劇スーパーバイザーは公演・人材養成・普及啓発の各事業で軸となる演劇事業で監修を務め、芸術面における質の向上に寄与し、当劇場のミッションである「質の高い文化芸術で市民の心を耕す」を達成するための舞台芸術の創造・発信を支えている。また、企画立案や制作についても、これまでの実績・経験を活かしたアドバイスをを行い、主として広報面でのアドバイスを行う演劇外部アドバイザーとともに重要な存在である。

演劇ディレクターチームは、事業の企画立案から事業に関与し、劇場職員と共に制作を進めている。「親と子のクリスマス・メルヘン」（公演事業－事業番号1）では、同ディレクターが企画立案から関与しターゲットに向けた訴求力が高いアーティスト（tupera tupera）の招聘・共創が実現した。

音楽アドバイザー、ピアノオーディションプロデューサーは音楽分野の事業においてその専門性を発揮している。音楽アドバイザーは劇場職員が企画制作を行う音楽事業について専門的見地からアドバイスをを行い、芸術面における質と職員の企画制作力の向上に寄与するほか、同アドバイザーが所属する大学（桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学）との連携ハブとなっている。また、ピアノオーディションプロデューサーは選考の質の担保と、若手演奏家への当該事業の訴求力向上に貢献している。

【DEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ）】

演劇アウトリーチ事業（普及啓発事業－事業番号6・7）では、せんがわ劇場演劇コンクール（人材養成事業－事業番号1）出身者を中心に構成されるグループであるDEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ／人材養成事業－事業番号3）のメンバーが担っている。DELへの加入には認定プログラムの修了が必須であり、また年間を通じてスキル向上のための育成プログラムを実施している。加えてDELメンバー内で独自の勉強会等が実施される等、当劇場以外の現場で得たスキルもDEL内で共有・蓄積されている。

当劇場のコミュニケーション育成型の演劇アウトリーチ事業（普及啓発事業－事業番号6）では、複数回に及ぶ継続的な事業実施が特徴のひとつであり、このことは、劇場として演劇アウトリーチに長けた人材であるDEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ）によって実現しており、DELの存在は当劇場の特徴かつ強みとなっている。

【舞台・客席変形】

当劇場は公称定員121人の小さな劇場ではあるが、舞台・客席の可変等、柔軟なホール運用ができる利点を芸術的価値の創造に活用している。

普及啓発事業では、事業番号1において舞台を撤去し参加型のプログラムを効果的に実施したほか、事業番号5・9では舞台・客席を全て撤去し、ワークショップの実施に適した形態でホールを使用した。

公演事業－事業番号1では、舞台及び客席を四方舞台に変形し、迫力・臨場感のある実演芸術を鑑賞者に提供した。また、四方舞台での作品づくりは演出家をはじめ、創作に携わった舞台芸術活動者にとっても多に刺激となり、当該事業が鑑賞者・舞台芸術活動者の双方に新たな価値創造をもたらしたと考えている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演事業】事業番号1（親と子のクリスマス・メルヘン）で収集した来場者アンケートの自由記述回答（226件）について、フリーソフトウェア KH Coder を用いたテキストマイニングを行った。分析の結果、「面白い」「楽し」「子ども」「大人」「箱」といった語が共起関係にあることがわかった。箱は本作品のモチーフとして使用されており、本作品における創作が効果的だったことがわかる。また、「箱」は「演出」「使い方」「役者」といった語とも結びつきが強く、演出や演技、舞台美術等が「大人も子どもも楽しめる作品」に効果的に作用したと推察できる。

加えて、同アンケートの「クリスマスシーズンに、今後も演劇を鑑賞したいと思いますか（1. 大いに思う 2. 思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない）」という質問では、「思う」以上の回答は92.4%と高かった。

以上のことから、事業内容が趣旨目的である「親子で文化芸術に親しむ習慣づくり」の推進に値したものであり、当該事業が生み出した芸術的価値によって地域に住むファミリー層の行動変容を促すことができたと言える。

【人材養成事業】事業番号1（せんがわ劇場演劇コンクール）では、舞台芸術活動者として経験の浅い個人及び団体を対象としている。そのため、作品上演に向けて同事業参加経験者等を参加団体のサポートスタッフとして配置し、経験者かつ同じ舞台芸術活動者の視点から上演に向けてのサポートを行い、団体の負担軽減とパフォーマンスの最大化とともに、参加団体の事業理解の促進や劇場及び周辺地域への愛着を持つことを企図している。

参加団体がその後、当劇場や周辺地域で主催公演を実施する等、当該事業に関連した新たな芸術活動が地域で生まれており、今後は同様な波及効果を意識した事業展開を検討していきたい。

- ・ 缶々の階 produce 『パノラマビールの夜』リーディング公演（2023年3月28日）
- ・ 盛夏火 劇場演劇 Vol.2 『カーニバル・アザーワイズ』CARNIVAL OTHERWISE（2023年6月14日・15日）

【普及啓発事業】事業番号6で実施した市内中学校で実施したコミュニケーションワークショップ（1年生約150人）の参加者アンケートと、事業番号8で実施した市内小学校での音楽アウトリーチ（小学生約1,000人）の参加者アンケートの回答について、それぞれ相関を分析した。

アンケート回答の分析の結果、事業実施のアウトプット（「楽しかった（感動した、ワクワクした、元気になった）」と「コミュニケーションをとることが好きになった」、「表現することが好きになった」、「芸術文化を大切だと思う」、「せんがわ劇場に行ってみたい」、「音楽が好きになった」、「コンサートに行きたいと思う」といった参加者の意識変容に関する回答の間に相関があることが認められた（相関係数 $r=0.5\sim$ ）。

この分析結果だけでは事業のアウトプットと参加者の行動変容の因果関係までは実証できないが、当該事業の実施が参加者の文化芸術に対する新たな価値観の創出に寄与していると言える。

また、事業番号6で通年実施した不登校特例校分教室でのコミュニケーションワークショップでは、事業を通した生徒の変化について、担当教諭へのアンケートで以下の指摘があった。

- ・ 昨年度はまだあまり自己表現することができなかった生徒が、今年は安心して自分を表現できていた。
- ・ 「ACWは参加したい」「楽しみ」と登校しようというきっかけとなった。 ※ACWは当該事業の学校での呼称
- ・ いろいろなメンバーとコミュニケーションをとったり、自分を表現したりすることに慣れてきた。
- ・ 表現することが苦手な生徒もいたが、最後まで教室にいることができるようになったり、成長がみられた。
- ・ それぞれのレベルで参加でき、終わった時に「楽しかった」という思いが残って達成感も得られていた。

以上の指摘から、実演芸術を活用したコミュニケーションワークショップが不登校特例校に通う生徒にポジティブな意識・行動の変容をもたらしていることがわかり、当該事業が企図している社会包摂につながる芸術活動の価値を生み出すことができたと考えている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

文化芸術活動と社会をつなぐための専門的活動として行う広義のアート・マネジメント実務（事業運営、組織・人事管理、財務・会計、ファンドレイジング、マーケティング、社会関係資本の蓄積等）の観点から点検・自己評価する。

（事業運営）

事業運営では、東京 2020 大会のレガシー継承のため、当財団独自のテーマである「100 年後の君へ。」を掲げ、助成対象事業を始めとした事業を通じて共生社会の充実、次世代への文化継承、地域の文化資源の活用、次世代を担う芸術家・鑑賞者の育成等に取り組んだ。なお、当該のテーマについては、関連した取組みを総括し、次期調布市総合計画を踏まえて今後新たなテーマを設定していく予定である。

このように、事業に関して、劇場設置者である自治体の計画との連動・連携を意識しながら、公立劇場の指定管理者としての専門性・独自性を重視した運営を行っている。

（財務・会計）

助成対象事業の実施をはじめとした円滑な事業運営のため、当法人の事案決裁規程の財務に関する事項について、専門性が要求される業務の契約決定に関する事案決裁規程の改定を行った。

その他、文化芸術に関連する契約実務研修への職員派遣を行う等、財務・会計実務についてアート・マネジメントの観点による改善を法人として行っている。

（ボランティア）

当財団では、ボランティアグループ「ちょうふアートサポーターズ」を組織している。事業の当日運営の他、積極的な活動ができるよう、多様な活動を提案・実施しており、助成対象事業でも当該グループが活躍している。

ボランティアグループの組織運営と活躍機会の提供をとおして、当財団による文化芸術活動のサポーターであるとともに、地域活動に主体的に参加するパートナーの輪を広げている。

（社会関係資本）

当劇場では、同じく仙川地域に所在する白百合女子大学、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学と連携・協働した事業や取組を実施しており、助成対象事業においても左記大学等との関係を活用して事業を実施した（普及啓発事業一事業番号 1・7・9）。また、当劇場複合施設として「仙川ふれあいの家」が併設され、当該施設の指定管理者でもある仙川商店街協同組合とも密接に連携・協働の取組を行っており、公演事業一事業番号 1 や普及啓発事業一事業番号 9 を通して、協働で地域活性化に取り組んでいる。

他方で、現在までに他の劇場・音楽堂等とのネットワーク形成、連携・協働の取組みは実施できておらず、他の公立劇場・音楽堂等との社会関係資本の構築が今後の課題であると考えている。

（PDCA サイクル）

総じて、助成対象事業におけるアート・マネジメント実務については、各事業の振り返り（担当者、出演者、企画制作者、舞台技術者等が参加）や当該事業の目標・指標による業績測定、職員による評価調書での総括評価によって検証し、以後の計画策定へとつなげている。また、左記のサイクルは当劇場の指定管理期間及び当財団基本計画による PDCA サイクル内のひとつでもあり、中長期計画の中でも検証をしていく。

他方で、PDCA サイクルについては計画偏重になりがちであるが、会計年度により事業を捉える場合には時勢に則した柔軟な対応が求められており、観察→方向付け→決断→実行（OODA ループ）の考え方の必要性も、コロナ禍を通じて学んだところである。